

ケーススタディ 2

キラキラなかもっ子「釧路・霧多布湿原自然教室」北九州・中間市教育委員会

プログラムの概要

日程	活動	ねらい
1日目 午後	<p>【オリエンテーションとウエルカムゲーム】 はじめまして 四つの窓 ヒューマンチェーン サークルボール</p> <p>【湿原についてイメージする】 プロジェクト・ワイルド（湿地を何かに例えと？）</p> <p>A・B（9人ずつ）グループに分かれ宿泊地へ移動。 A：どさんこ牧場センターハウス（自炊施設） 温泉ツアー</p> <p>B：達古武キャンプ場（自炊・テント） ナイトウォッチング</p>	<p>自己開示 グループワークへの導入 ・4日間ともに行動するので、お互いの協調性を高めていきます。</p> <p>湿原への感心を高める ・釧路湿原・自分たちの身近にある湿地をイメージさせ、生き物や人間にとって湿原が大切な役割を果たしていることに気づく。</p>
2日目 午前 午後	<p>【釧路湿原を体感する】 A：どさんこホーストレッキング B：釧路川カヌーツーリング</p> <p>【湿原を知る】 合同 初日にイメージした湿原を自分の足で歩きます。 湿原の実際をお互いに話し合い、確認作業を行う。</p> <p>A・Bそれぞれの宿泊地へ移動 （初日の逆・ナイトプログラムも同様）</p>	<p>湿原を身近なものとしてとらえる ・馬では高い目線、カヌーでは低い目線で湿原をとらえることで、上から見ると平坦な湿原も実は多様な世界であることを知る。</p> <p>湿原の多様性を確認する ・湿原をもっと身近にとらえ、その多様性と生き物や人間との関係を学ぶ。</p>
3日目 午前 午後	<p>【釧路湿原を体感する】 A：釧路川カヌーツーリング B：どさんこホーストレッキング</p> <p>湿原の恵みに「食」からせまります。 釧路市街にある和尚市場で海鮮丼を作ります。</p> <p>【霧多布湿原と人々の暮らし】 霧多布湿原では湿原とともに漁業を営む地元の漁師さんと交流します。</p> <p>チャンチャン焼きに挑戦する。 漁師さんに漁業や海のお話を聞く。 宿泊：霧多布キャンプ場（バンガロー）</p>	<p>自分たちの生活とのつながり</p> <p>地域を知る・郷土を愛する意味 ・豊かな湿原の恵みとともに生きる漁師の暮らしに触れ、地域の大切さを知る。</p>

4 日目	早朝	コンブ漁ウオッチング 大迫力の漁船出向シーンをあぜち岬から見学。	すべてのつながりを知る 大切な湿原のためにできること ・地域・郷土への意識を高め、守り、 改善していくことの重要性を知る。
	午前	【湿原の不思議にせまる】 コンブ漁師さん宅でコンブの荷あげ見学 コンブ干し体験 バードコールづくりと湿原ハイク 豊かな海と湿原を守っている森のために作業をします。 *雨天の場合はてがけコンブ体験 ふりかえり	

プログラムづくり

1 相談内容

委託者 北九州 中間市教育委員会

旅行会社 (株)近畿日本ツーリスト 北九州支店

対象 中間市の小学校 6 年生

九州とは違う北海道らしい自然・生活・産業に触れる中で新しい価値観を育み、
自分達の環境や生活を考える機会を作ってほしい。北海道らしいどこまでも広い？
自然？の中で本物？のアウトドア体験をしたい。

ねらいの決定

a ねおす側の思い：

- ・北海道を代表する一次産業である漁業。その漁業と豊かな海を支えているのが湿原であることに気づき、自分達が食べているものと自然が結びついているひとつのモデルを体感する。
- ・またすでにそのことに気づき活動している地元の人（漁師さんたち）に出会い、触れる事で郷土を愛する意味を学ぶ。
- ・湿原で遊び、そのまわりでの暮らしを体験することで湿原（自然）が持つ多機能性（涵養性、浄化作用、栄養分の提供、生物の休憩・繁殖地の提供、レクリエーションの場の提供など）を知る。

b ポテンシャル分析：

- ・この地域では大人向け等でもプログラムを組んでおり、フィールドを理解している。
- ・地元（道東）とのネットワークを持っている。
- ・プログラムを運営できるスタッフがいる。

- ・良質な自然とともにホーストレッキング・カヌー（観光業）、漁業など、それをうまく活用している暮らしがある。

c 背景（法人のミッション）: 環境教育プログラムを開発、実行することで参加者だけではなく、地域の人々にも教育効果をもたらす。

d 目標: 湿原と人、そこに息づく人の暮らしに触れることで、すべてはサイクルとしてつながっており、自分たちの生活と自然は別物ではなく深いつながりのあることに気づいてほしい。

コンセプト（ねらい）: 豊かな自然と豊かな暮らし、豊かな人と出会い、自分達の郷土を見詰め直す。

3、手法の決定

できるかぎり多く、地域の方がたに協力いただき、語ってもらうことで、文字どおりストーリー性をだす。カヌーやホーストレッキングといった動的な動きと散策といった静的な動きを組み合わせ、メリハリをつける。自然体験と「食」を結びつけることで非日常から日常を意識させる。

4、実施

概要を参照